

スポーツ医・科学センター（仮称）整備の基本的方向性 概要

第1 はじめに（趣旨）

スポーツ医・科学センター（仮称）の整備に当たり、情勢の変化を踏まえ、有識者の意見を伺いながら、基本的な考え方、整備についての必要な事項を取りまとめ、今後の設計・整備に反映させることを目的とする。

第2 現状と課題

1 現在のスポーツ医・科学サポート拠点の概要

- （1）設置時期
平成25年度～
- （2）職員体制
文化スポーツ部スポーツ振興課 競技スポーツ担当 5名
- （3）活動拠点

施設名	外観	設置年	面積(全体)
県営スケート場 食堂棟2階 (S造2階建)		H9 築28年	建築：382㎡ 延床：657㎡

2 成果

- （1）スポーツ活動支援（競技力向上）
 - ・ 本県独自のIAT（いわてアスレティックトレーナー）の養成
 - ・ 体力測定とその結果の評価・分析に基づくトレーニングプログラムの提供
 - ・ スポーツ・インテグリティの確保に向けた取組
- （2）健康づくり支援
 - ・ 専門家による情報発信、きめ細かな運動指導
 - ・ 東日本大震災津波の沿岸被災地における訪問指導
 - ・ コロナ禍における運動プログラム動画の提供

3 課題

- （1）競技力の低下
- （2）アスリート支援の充実
- （3）指導者の資質向上
- （4）幅広い年代の健康増進や運動習慣の定着化
- （5）スポーツ医・科学サポート拠点の狭隘化・老朽化

第3 スポーツ医・科学センター（仮称）整備の基本的な考え方

1 コンセプト

スポーツ医・科学の知見を広く県民に還元し、
県民のスポーツ・健康づくり活動をサポートするための
研究・分析・情報発信の拠点

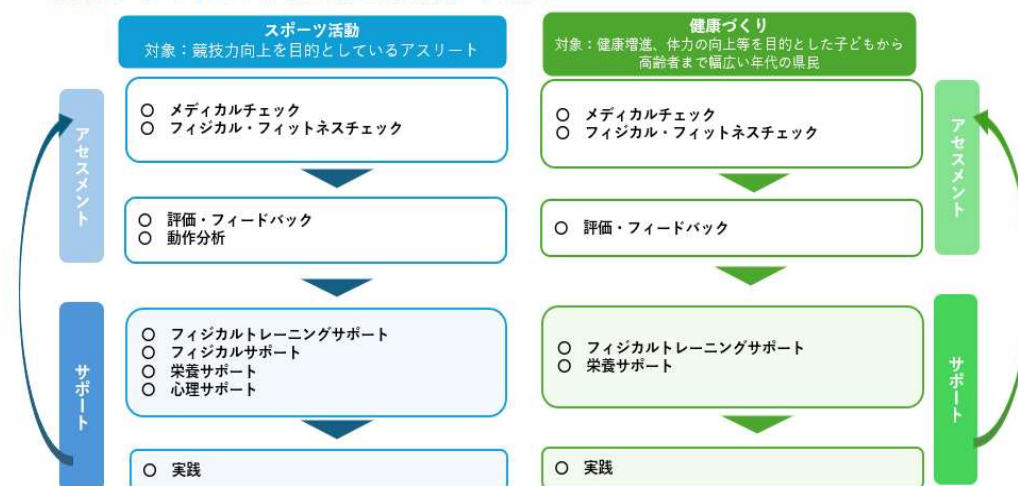
2 目指す姿

- （1）世界で活躍するトップアスリートの発掘・育成を目指した競技力向上を担う拠点
- （2）安全で効果的なスポーツ活動サポートを担う拠点
- （3）県民の運動習慣の涵養や健康増進、体力の向上等の促進を担う拠点

第4 スポーツ医・科学センター（仮称）が担う機能

- 1 ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ
本県の「スポーツ医・科学サポート事業」で推進してきた「スポーツ活動（競技力向上）」「健康づくり」に対する支援は、スポーツ医・科学センター（仮称）整備後も維持
- 2 アセスメント機能の強化によるサポート機能の充実
アセスメント機能の強化を図り、スポーツデータを活用した科学的根拠に基づく効果的なサポートを提供し、継続して効果を観察・評価
- 3 スポーツ医・科学の知見を有する人材の育成
スポーツ医・科学の知見や情報を理解し実践できる人材の育成を推進

測定などトータルアセスメントに基づく個々に適したサポートの提供



1 整備の方法

県営スポーツ施設の集約化により、利用面において競技力向上に大きな相乗効果が期待されるほか、施設設備の共有化を図ることにより、整備費の低減や運営に係る人件費、施設の維持管理費の縮減も見込まれることから、県営体育館及び県勤労身体障がい者体育館の集約化の検討の中で、当該施設と併せてスポーツ医・科学センター（仮称）を整備することを基本として進める。

2 基本的な考え方

- (1) 利用者の視点に立った施設であること
アスリート・パラアスリートや指導者をはじめとする全ての施設の利用者が利用しやすい施設とする。
- (2) 周辺環境や地球環境に配慮した施設であること
周辺環境や景観に配慮するとともに、建築物のZ E B化（Z E B R e a d y相当以上）など省エネルギー化、脱炭素化を推進し、地球環境に優しい施設とする。
- (3) 経済的で効率的な施設であること
必要な設備、機器等を確保しつつ、導入コストの低減にも配慮した整備内容とする。
また、施設のランニングコストや設備、機器等のメンテナンスコストの低減に配慮した整備内容とする。
- (4) 人口減少下においても持続可能な施設であること
長期的に使い続けることができる施設としつつも、人口減少下における本県のスポーツ環境を取り巻く情勢の変化に対応できる汎用性の高い施設とする。

3 施設の規模（想定）

今後検討
【参考】スポーツ健康科学センター（仮称）
（H22策定 基本構想段階）約2,300㎡

4 必要な諸室（想定）

諸室	機能等
トレーニング室	各種筋力トレーニング等
測定室、データ分析室、映像処理室	体力、その他の能力について総合的の評価・分析等
リコンディショニング室	スポーツ障害等に対する予防や機能回復の支援
カウンセリング室	各種サポート
パフォーマンス室	実技研修等（小体育館・器具庫含む。）
資料室	最新のスポーツ医・科学情報等の提供
研修室・会議室	集合型（座学）研修等
更衣室・シャワー室	利用者用
管理諸室（事務室等）	職員用
その他の諸室（トイレ等）	共用スペース
救護室	救護、処置・手当等（体育館諸室とすることも検討）

※水色着色の諸室は集約化後の体育館と共用可能な諸室

5 必要な機器等（想定）

HPSC連携機関指定要件機器（等速性筋力測定装置、全身持久力測定システム 等）、トレーニング機器等（研修・サポート用）

第6 おわりに

- ・県営体育館及び県勤労身体障がい者体育館の集約化の検討の中で、スポーツ医・科学センター（仮称）の整備を進めることを基本として、必要に応じ関係団体等との意見交換を図りながら進めていく。
- ・スポーツ医・科学センター（仮称）の管理運営・人員体制、関係団体との連携等については、引き続き、関係団体や有識者の意見を聞きながら、検討を進めていく。